

1 単元名 他者の言葉と関係付けて話す (第1学年) A話すこと・聞くこと

2 単元について

(1) 生徒の実態

第1学年の生徒は、「話すこと・聞くこと」領域の「話すこと」において、目的や意図に応じて話題を設定することや、話の内容が明確になるような構成、自分の考えが伝わるような表現の工夫などについて、小学校で学習している。また、「話すこと」に関する意識調査（茨城大学教育学部附属中学校第1学年生徒123名、令和5年5月2日実施）を行ったところ、以下のような回答が得られた。

	どちらかと言えば得意	どちらでもない	どちらかと言えば苦手	
問1 自分の意見を話すことについて	58名	38名	27名	
問2 問1でそう答えた理由 (主なものを抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人前で話すことや意見を言うことが好きだから</li> <li>・自分の意見を伝えることにより、自分のことをもっと知ってもらえると思うから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自信がある時は自分の意見を話せるけど、自信がないときは間違えていたら恥ずかしいから</li> <li>・前に準備できれば話せるけれど、とっさに話すことが苦手だから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見が間違っているかもしれないという気持ちがあるから</li> <li>・自分の意見がまとまっていないことが多いから</li> <li>・緊張で何を言えいいのかが分からなくなるから</li> </ul>	
問3 小学校までの学習で身に付いたこと・できるようになったこと (主なものを抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料やデータに基づいて意見を話すこと</li> <li>・話し合いの時に進んで発表すること</li> <li>・司会などの役割で話し合いを円滑に進めること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見に理由をつけて話すこと</li> <li>・人の意見を聞いて共感したり議論したりすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の話したいことを要約し、分かりやすく伝えること</li> <li>・理由をつけたり、経験を話したりすること</li> </ul>	
問4 まだうまくできないこと・できるようになりたいこと (主なものを抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の意見を聞いて自分の考えに加えること</li> <li>・相手の話した内容について、よい所などを探して、相手に伝えること</li> <li>・みんなの意見をまとめられるようになりたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠と結び付けて自分の意見を話すこと</li> <li>・自分の意見と他人の意見を組み合わせ、よりよい意見を導き出すこと</li> <li>・相手の意見も尊重して話し合いを進めたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭の中で話す文章を組み立てること</li> <li>・自分の考えていることを言語化すること</li> <li>・自分の意見に自信を持って発言できるようになりたい</li> </ul>	

問1の設問では、「どちらかと言えば得意」と感じている生徒が58名と約半数おり、自分の意見を話す学習活動を前向きに捉えている様子が伺える。一方、「どちらでもない」「どちらかと言えば苦手」と回答した生徒を合わせると約半数にのぼった。問2の設問への回答内容からも、程度の違いはあるが話すことに対して苦手意識をもっている生徒が一定数いることが分かった。

問3の設問「小学校までの学習で身に付いたこと・できるようになったこと」の回答を見ると、意見を述べる際には理由を取り上げたり、資料を活用したりすること、自分の考えが伝わるように工夫すること、互いの立場や意図を踏まえて話し合うことなどを挙げた生徒が多かった。話し方よりは、話す内容を検討し考えをまとめることについて学んできたという意識が強いことが推察できる。問4の設問「まだうまくできないこと・できるようになりたいこと」の回答では、「根拠と結び付けて自分

の意見を話すこと」「自分の意見と他人の意見を組み合わせ、より良い意見を導き出すこと」「自分の意見に自信を持って発言できるようになりたい」など、自分の話す力を向上させたいと考えている生徒が多く見られた。

これらの結果を踏まえると、自分の意見とその理由は伝えられるが、自分の考えや根拠が明確になるように話の構成を考えることや、自分の意見と他者の意見とを比較したり関係付けたりして考えをまとめることに課題があることが見えてきた。

## (2) 単元観

そこで、「他者の言葉と関係付けて話す」という本単元を設定した。今後の学校生活での話し合い活動はもちろん、ゆくゆくは社会の創り手を担う生徒たちには、自分の考えのみにとどまらず、他者の異なる考え方も生かして再構成し、新たな知恵や解決策をともに創り出していく力が求められる。そのため、同じテーマについてグループの友人とそれぞれの意見を述べ合う活動を設定する。まずはテーマについての自分の考えを述べ、そのあとで友人の意見を聞くことで、自分の意見や根拠との比較・分類・関係付けを行っていく。そうすることで、意見は同じでも根拠は多様にあることや、自分の意見によりふさわしい、説得力が増す根拠の存在に気付くことができるようにしたい。そして、活動を通して再構成した自分の意見とその根拠を、改めて話すという活動を最後に設定することで、自己の変容を見取れるようにしたい。

また、単元を通して、「自分の考えや根拠が明確になるように話の構成を考えること」、「比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使うこと」をねらいとし、育成を目指す資質・能力として位置付ける。実生活の場面で活用することができる汎用性のある資質・能力を育てていくために、他者意識をもって活動できるような授業展開を目指していく。生徒が、これまでに身に付けた知識・技能や、多様な他者との対話によって発見した新たなものの見方・考え方を生かして、他者へと表現できるようにしていきたい。

## (3) 指導観

指導にあたっては、①ICT端末を活用した思考の整理と可視化、②キャッチコピーを用いた単元構成による学習活動の明確化、の2点を意識して単元開発を行う。

まず①について、話の構成を考えたり情報を整理したりするプロセスにおいて、ICT端末を積極的に活用していく。本校の生徒はiPadを使用していることから、ロイロノートは思考の整理の際に活用することとする。具体的な活用場面としては、話の構成を考える時に意見と根拠のカードをつなげて話す際の構成メモとして活用したり、他者の発表の要旨をカードに短くまとめたりしていく。そうすることで、言葉が残りにくい音声言語を用いた話す活動においても、思考の整理と可視化が可能になると考えられる。ワークシートや付箋を使用するよりも手軽に、簡単に行えることは大きなメリットといえる。また、他者の意見や根拠もカードにメモしながら聞き、残しておくことで、自分の意見との比較・関連付けが容易に行え、分類した結果も一目で分かる。自分の考えを伝えるために必要な、説得力のある根拠として、他者の言葉カードを自分の考えに紐づけることも可能であることから、思考の整理と可視化のために、ICT端末を積極的に学習活動に取り入れていく。

次に②について、本単元の学習活動を生徒に分かりやすく伝えるために、『出し合う・比べる・考えを述べる』の3ステップで話す力を付ける！』というキャッチコピーを用いる。日常生活において他者と話す際には、話題についての考えを出し合い、自分や他者の考えと比べた上で、自分はどうのように考えるかを丁寧に伝えることが必要である。単元名である「他者の言葉と関係付けて話す」ためには、他者へ自分の意見を伝えるために考えを整理することはもちろん、他者との対話の中で新たな知恵や価値に気づき、他者と自分との共通点や差異を知ることができるような活動を行っていきたい。

第一次は一つ目のステップ「出し合う」とし、テーマについての最初の考えを伝え合う。同じテーマを選んだ生徒同士でグループを構成し、グループ内でテーマに対する考えを話す。その際には、自分の考えと根拠が明確に伝えられるよう指導していく。また、聞き手は他者の話をただ聞くのではなく、意見との根拠に分けて聞き取るように促し、前述したロイロノートのカードとしてメモしていく。

メモをするという活動は、他者の話のどこが重要かを考えるなど、要旨をつかむ学習活動としても有効であるといえる。

第二次は二つ目のステップ「比べる」とし、自分の意見と、同じグループ内の他者の意見とを比べていく。比べる際には、自分の意見と同じかどうかだけではなく、どのような事実や事例を根拠として用いているかについても考えるよう助言する。そうすることで、必要に応じて他者の意見を自分の考えに取り入れるなど、意見と根拠をどのように関係付ければ相手に分かりやすく伝わるか、主体的に発見できるようにしたい。

第三次は三つ目のステップ「考えを述べる」とし、最終的な自分の考えを述べていく。考えを述べる活動が終了したあとは、第一次で最初の自分の考えを話した際のロイロノートの構成カードと、最終的な自分の考えのものとを比較させることで、どのようなプロセスを経て自分の意見や根拠が出来上がっていったかが分かるようにしたい。振り返りとしてその活動を行うことで、自分の学びのプロセスを客観的に捉え、単元の学びを通して自分にどんな資質・能力が身に付いたか、今後どのように活用できそうか、などが見いだせるようにしたい。

### 3 単元の目標

- 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使うことができる。  
〔知識及び技能〕(2)イ
- 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)イ
- 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

### 4 単元の学びの価値とそれを生み出すための手立て

#### (1) 単元の学びの価値

#### 自分の考えを話すって発見だ

国語科が考える学びの価値は「言葉を紡ぐって発(ハッ)見だ」である。国語科基調で示した通り、ハッと気付く、ハッと驚く瞬間を授業の中に生み出すことで、その発見がなぜ生まれたか、つまり発見の要因を生徒が考えることにつながり、学びを通して肯定的な感情を得られるのではないかという考えのもと、定義している。その発見は、自分の中で言葉を紡ぐというプロセスだけでなく、多様な他者との対話という視点の中でも起こりうるものであり、多様な場面での実感を想定している。

そこで、本単元では、自分の考えを他者へと話す活動の中で、多くの発見が生まれるようにしていきたい。具体的には、他者の言葉と関係付けて話すことで、話の構成や内容について、他者との共通点や相違点に気付いたり、自分になかった考えや根拠の用い方に驚いたりできる場面が生まれるようにしていく。また、学習内容だけでなく学び方について発見することも想定される。そして、振り返りの際に「単元の学習を通して、どんな発見があったか、そこからどんなことを感じたか」を視点として設けることで、学びを通して得る肯定的な感情とその要因、すなわち学びの価値を実感した生徒の姿が表出するのではないかと考える。

#### (2) 単元の学びの価値を生み出すための手立て

##### ① 「話したい」・「聞きたい」という意識を醸成する題材や導入の工夫

本単元では、生徒の資質・能力を育成するために、同じテーマについてグループの友人とそれぞれの意見を述べ合う活動を設定している。生徒が学習活動に意欲的に取り組み、授業の中で「ハッとする」瞬間や発見の瞬間を生み出していくために、生徒が「話したい」・「聞きたい」と思えるテーマであることが望ましい。そのため今回は、導入として「学校にあるコト・モノの意義を問い直そう」と喚起していく。第1学年の生徒は、新たに始まった中学校生活にも少しずつ慣れてきており、学校のきまりや約束事を守って生活しようとする姿が見られる。しかし、学校のきまりや約束事などを守ることが当たり前で、その意義を十分理解して生活しているとは言い難い。そこで、テーマとして「係ってどうして必要なんだろう」「制服って何だろう」「なぜ学ぶことは必要なんだろう」など、生徒の

今の学校生活の中からテーマを設定させていく。「自分の好きなもの」や「行くなら〇〇か△△か」など、個人の趣味・嗜好が強く関わるテーマや、二項対立でどちらかの立場から意見を述べるテーマよりも、全員が同じように経験している学校生活という範囲の中で、当たり前に行われているコト・モノをテーマとして設定することで、意見を出し合い、比べる必要感が生み出されると考えた。また、中学校生活だけに見られるコト・モノは、まだ生活経験が乏しく意見をもつことが難しいと予想されるため、小学校生活などのこれまでの生活に見られる日常のコト・モノをテーマとして設定させたい。このようにテーマを設定し、今まで当然だと思っていた日常のコト・モノの意義を改めて見つめ、問い直すことで、生徒が実体験をふまえた意見やその根拠を語ることができると思う。最終的には、意義を問い直す活動を通して新たな価値が生まれ、自分たちの話し合いによって新たなルールが生まれることも予想される。このように、生徒の身近なコト・モノを学習材として活用することで、学校の授業で行っている学びと日常生活とのつながりを自覚する契機となることを目指していく。日常生活との親和性が高いからこそ、他者との対話の中で自分の思いを何とかして相手へと伝えたいという意欲が醸成されると考える。

## ② 生徒が主体的に取り組めるような単元構成と学習活動の設定

本単元では、「肯定的感情を喚起する学びのデザイン」を手立てとして実現するため、授業展開や対話場面などを工夫しながら、言語活動や単元構成を行っていく。まず単元構成は、『出し合う・比べる・考えを述べる』の3ステップで話す力を付ける！というキャッチコピーを用いることで、学習活動を明確化し、共通理解を図りながら単元の学びを進めていきたい。単元を大きく三つに分け、順序立てて進めていくことで、単元の学習に見通しをもって取り組むことができると考える。また、単元の終末時に、自分はどんな姿になっていたか、そのためにどんな学習活動に取り組むべきか、を生徒自身が自覚した上で授業に臨むことができると考える。

次に学習活動として、ICT端末を活用することで、思考の整理と可視化が容易に行えるようにしながら、単元の学びを進めていきたい。ロイロノートを活用し、話す内容や構成を整理する学習活動を取り入れることで、単元のねらいとして設定した「自分の考えや根拠が明確になるように話の構成を考える」資質・能力を育成していきたい。また、ステップ2「比べる」の学習活動では、ロイロノートのメモを活用し、対話を通して他者との共通点や相違点を発見したり、自分になかった考えや根拠の使い方に気付いたりすることで、「比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使う」資質・能力を育成していきたい。具体的には、ステップ1「出し合う」の段階ではテーマに対する自分の考えが「意見」＋「根拠」であったものから、ステップ2「比べる」で他者との対話の中で見いだした新たな「根拠」、他者の「意見」、「根拠」などを付け加えていき、終末時では「意見」、複数の「根拠」、これから自分はどうしていくべきか（展望）が、自分の考えとして表出するようにしたい。ステップ1での考えと終末時の考えを比較することで、どのようなプロセスを経て自分の意見や根拠が出来上がっていったかが分かると考える。このような単元構成と学習活動を設定することで、自身の成長を実感することができ、学びを通して肯定的な感情とその要因を、生徒自身が得られるようにしたい。

## 5 指導と評価の計画（6時間扱い）

時間		〇…評価規準【評価方法】	知・技	思・判・表	主体的	学習内容・活動	○指導上の留意点
次	時						◎規準を実現するための手立て ★単元の学びの価値を実感させるための手立て
1	1 ・ 2 ・ 3	[思考・判断・表現] ① 自分の考えや根拠が明確になるように、テーマに対する事実と意見との関係に注意して話の構成を考えることができるかの確認 【観察・ロイロノートのカード】		①		ステップ1 「出し合う」  ○ 学校生活の中から、話すテーマを設定し、ロイロノートのカードを活用して話の構成を考える。  ○ 同じテーマを選んだ生徒同士でグルー	★ 生徒の身近である学校生活の中からテーマを選び、自分なりの考えを他者に伝える活動を設定することで、意欲的に話す活動に取り組めるようにする。 ◎ 自分の考えを整理するために、ロイロノートで意見と根拠のカードを作成する。そうするこ

					<p>プを構成し、グループ内でテーマに対する考えを話す。</p> <p>○ 他者の考えを聞き取り、新たなカードとして作成する。</p>	<p>とで、テーマに対する事実と意見の関係に注意しながら話の構成ができるようにする。</p> <p>○ 他者の話を聞き取る際には、重要な内容やキーワードを意識するよう促すことで、話の要旨を捉えながら聞くことができるようにする。</p>
1	2	1	本時	①	<p><b>ステップ2</b> <b>「比べる」</b></p> <p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>学校の「あたりまえ」を、自分や友人はどう考えているのだろう。</p> </div> <p>2 テーマごとのグループに分かれ、対話する。</p> <p>(1) 前時までに作成したロイロノートのカードを見直し、グループ内で話題にしたい内容を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と違う視点で考えているので、○○さんのこの意見について取り上げて、詳しく聞きたいな。</li> <li>・△△さんと□□さんは、意見は同じだけど根拠が少し違うな。それぞれどうしてこの根拠にしたか、聞いてみよう。</li> </ul> <p>(2) (1)で決めた内容についてグループで対話し、テーマに対する理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友人の考えで、気になることや詳しく聞きたいことを問う</li> <li style="text-align: center;">↓      ↑</li> <li>・友人の考えを聞き、自分の考えをさらに詳しく述べたり、さらに話を深めたりする</li> </ul> <p>3 対話をふまえて、自分の考えを整理する。</p> <p>(1) 情報の整理の仕方について、全体で考える。</p>	<p>◎ 本時は、前時までに作成したロイロノートのカードを比較・分類・関係付けて、自分の考えを整理することがゴールであることを伝える。</p> <p>○ それぞれの考えを話す活動を行った前時を受けて、本時ではテーマについて考えを深め、整理するために対話を設定する。</p> <p>○ 実生活においても、新たな知恵や解決策をとるにも創り出していくことが求められるため、自分の考えのみにとどまるのではなく、他者の異なる考え方も生かして再構成していけるように促す。</p> <p>★「言葉を紡ぐって発（ハッ）見だ」という国語科における学びの価値を実感できるようにするために、対話を行う。対話を通して、話の構成や内容について、他者との共通点や相違点に気付いたり、自分になかった考えや根拠の使い方を見つけたりできるようにする。</p> <p>◎ 情報の整理の仕方について全体で考える活動を設定することで、自</p>

[知識・技能]

- ① 自分の考えと他者の考えを比べながら、比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、実際に自分の考えを整理できているかの確認

【観察・

ロイロノートのカード】

比較・分類する

複数のカードを比べ、共通点や類似点、相違点に基づいてカードを類別する

関係付ける

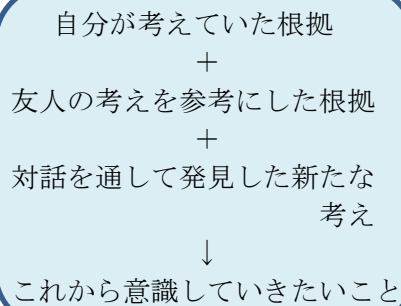
複雑な情報を細かく分けたり、一定のきまりに沿って順序立てたりする

- (2) 比較・分類・関係付けを行い、自分の考えを整理する。

☆ 考えの整理のポイント

同じグループ内の他者の意見とを比べる際には、自分の意見と同じかどうかだけではなく、どのような事実や事例を根拠として用いているかについても考え、関係付ける

☆ 自分の考えを整理した例  
自分の考え



- 4 本時の活動を振り返る。  
・本時の学習の振り返りを入力する。  
(振り返りの観点)  
・身に付けた資質・能力 ・疑問  
・新たな気付き・今後へつながること など

分の考えを整理する秘訣を協働的に導いていけるようにする。

- 複雑な情報を把握したり、自分の思考を明確にしたりできる利点に気付かせることで、情報を整理するよさについて実感できるようにする。

- 他者の意見や根拠の比較・分類から、自分の考えとの関係付けへと高められるようにする。

- ◎ 意見は同じでも根拠は多様にあることに気付いたり、自分の意見によりふさわしい、説得力が増す根拠の存在に気付いたりできるようにする。また、再構成した自分の意見とその根拠を、改めて話すという活動を次時に設定することで、自己の変容が見取れるようにする。

- ◎ 自分の考えを整理する際にもロイロノートのカードを活用し、思考の整理と可視化が容易にできるようにする。また、どんなプロセスを経て自分の考えが形成されていったかをメタ認知する手立てとする。

- 本時の学びを振り返り、身に付けた資質・能力や新たに生まれた課題などが明らかにできるようにする。本時の学びを、次時以降の活動につなげていけるようにしたい。

	2	<p>[思考・判断・表現]</p> <p>② 前時で比較、分類、関係付けた情報を活用しながら、自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考えることができるか の確認</p> <p>【発表原稿・ロイロノートのカード】</p>		②	<p>○ 自分の意見と、他者の意見とを比べた前時の活動をふまえて話す内容を再構成する。</p> <p>○ 改めて、テーマに対する自分の考えをまとめ、話す準備をする。</p>	<p>◎ 必要に応じて他者の意見を自分の考えに取り入れるなど、意見と根拠をどのように関係付ければ相手に分かりやすく伝わるかを考えるよう助言することで、生徒自身が主体的に話す内容を再構成できるようにする。</p>
3	1	<p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <p>① 粘り強く、自分の考えや根拠が明確になるように話の構成を工夫しながら、今までの学習を生かして考えを述べようとしているかの確認</p> <p>【観察・振り返りの記述】</p>		①	<p><b>ステップ3</b> <b>「考えを述べる」</b></p> <p>○ これまでの活動をふまえて、最終的な自分の考えを述べる。</p> <p>○ 第一次で最初の自分の考えを話した際のロイロノートの構成カードと、最終的な自分の考えのものを比較し、単元の学びを振り返る。</p>	<p>◎ 第一次の考えと終末時の考えを比較する活動を設定することで、どのようなプロセスを経て自分の意見や根拠が出来上がっていったかが分かるようにする。</p> <p>★ 単元の学習を通して、「どんな発見があったか、そこからどんなことを感じたか」という視点から振り返るよう声をかける。そうすることで、肯定的な感情とその要因を、学びを通して得ることができたかについて、生徒の姿から見取れるようにする。</p>